

SDGs Youth Ambassador Program

特別講義13報告書

平等な社会を目指して～医療系学生 × SDGs～



目次:

講師と団体の紹介	3
講師の紹介:久世瑞穂氏	
団体の紹介:IFMSA-Japan	
研修の目的	3
IFMSA-Japanの活動事例	3
IFMSA-Japan (国際医学生連盟 日本)とは	
UHCと健康	4
IFMSAの取り組み (UHC, SDGs Goal 3の観点から)	
人権とジェンダー	5
活動の障壁	
学生ならではの楽しさ、難しさ	5
ワークショップ	6
発表グループ1	
発表グループ2	
質疑応答	7
プログラムと(講義名)の概要	7
SDGs Youth Ambassador Programについて	
(講義名)について	

講師と団体の紹介

1. 講師の紹介: 久世瑞穂氏

- 1) 現在北海道大学、医学部医学科に在籍。2020年度よりIFMSA-Japan代表を務める。IFMSA-Japan活動歴として、2018年に北海道大学代表者となる。翌年には、性と生殖・AIDSに関する委員会責任者を務める。そして、現在2020年度のIFMSA-Japan代表となり全体の指揮を取る。

2. 団体の紹介: IFMSA-Japan (国際医学生連盟 日本)

- 1) 「IFMSA」という団体名は「International Federation of Medical Students' associations」の頭文字をとったもの。IFMSA-JapanはIFMSAの日本支部で「国際医学生連盟 日本」とも呼ばれる。IFMSAは世界140以上の国と地域、130万人以上の医療系学生が参加する世界最大級の医療系学生NGOである。WHOが唯一公認した学生団体であり、世界医師会など多数の世界機関と提携している。IFMSA日本支部であるIFMSA-Japanには、全国56校の大学、約700人の学生が参加し、約300名のスタッフが活動している。加盟大学は北海道から沖縄に及び、文字通り全国規模の医療系学生団体である。活動の形態として、IFMSA-Japanには世界共通の6つのテーマを扱う「委員会」があり、その下でより具体的なテーマをもとに「プロジェクト」が活動している。

研修の目的

- 1) IFMSA-JapanのSDGsに関連した活動について学ぶ
- 2) ユース世代の視点から見た社会問題について理解する
- 3) SDGs達成に向け、若者が実践できるアクションについて考え、学ぶ

IFMSA-Japanの活動事例

IFMSA-Japan(国際医学生連盟 日本)とは

※ 一般的な概要は上記「団体の紹介」を参照

- 1) IFMSA-Japanは6つのテーマに基づく活動を展開する。
 - a) 性と生殖・AIDS
 - b) 医学教育
 - c) 公衆衛生
 - d) 臨床交換留学
 - e) 人権と平和
 - f) 基礎研究交換留学

- IFMSA-Japanの掲げる理念である「より良い社会を目指す」には、"平等"という視点が欠かせない

UHCと健康

- 1) UHC(Universal Health Coverage)とは
 - すべての人が、適切な健康促進、予防、治療、機能回復に関するサービスを、支払い可能な費用で受けられること
- 2) 日本の取り組み事例
 - 国民皆保険制度
 - 医学部の増設

IFMSAの取り組み(UHC、SDGs Goal 3の観点から)

- 1) WHO Simulation in Japan
 - 各参加者が1つの国、NGO、企業の代表として会議に臨み、WHO総会を模擬体験するイベント。2018年度は、世界の母子保健について提言を作成。
 - 提言を作成する意義
 - テーマに沿った国際問題について理解し考えることができる
 - 参加者の国際協力や、キャリアに関する興味関心を向上させる
- 2) Health Professional Meeting
 - 世界の医療関係者と交流
 - UHCに関する学びを深めることができた
- 3) UHC Day 2019イベントでのパネルディスカッション
 - テーマ:誰一人取り残されない医療を考える
 - 外部のイベントで医療学生を代表して参加することに大きな意義
- 4) インフォグラフィックスを作成してSNSで発信
 - 情報を目で見てわかるようにまとめ、啓発する



- 5) 医療学生がUHCに取り組む意義
 - 将来的に医療に携わる学生として、実際の職務で役立つように知識や経験をインプットしておく重要性がある
 - 全国的に活動する団体として、社会にインパクトを付与する

人権とジェンダー

- 1) SDGs Goal 1「貧困をなくそう」に関する活動
 - a) 勉強会やフィールドワークの開催(東京・札幌)
 - i) 子ども食堂に訪問し、子どもの貧困について考える
 - ii) シングルマザー支援を行う団体にお話を伺う
 - iii) 炊き出しボランティアに参加
 - iv) ビックイシュー事務所に訪問
 - v) 地域特有の貧困問題について考える
 - b) 世界に向けた発信活動
 - i) 貧困撲滅のための国際デー企画を実施し、SNSでの情報発信や、アンケートを実施
- 2) SDGs Goal 10「人や国の不平等をなくそう」に関する活動
 - a) 日本の放射線関連法の見直し
 - b) 避難所での多様性を考える(特に高齢者、障害者に対する避難所での対応について)
 - c) 法律から考える国民皆保険制度
- 3) SDGs Goal 5「ジェンダー平等を実現しよう」
 - a) ジェンダー平等に関する勉強会の実施
- 4) 医療系学生と人権
→ 「意識高い系」学生と言われがちだが、意識が高いことは非常に大切である。活動を通して、様々な人権問題に目を向けていく。
→ 患者さんとの良い信頼関係を築く上で、人権問題に関するアンテナを持っていることは必要となってくる。また、医療現場での人権を守ることにもつながる。

活動での障壁

全国で多様な活動を行うIFMSA-Japanならではの、活動での障壁についても伺った。

1. 学生ならではの難しさ

- 1) 全国の学生と繋がり活動を行う楽しさがある反面、学生の本分である勉学を疎かにできないのも事実。どこまでのコミットメントができるかを見極めながら、活動も継続・拡大しなければならない。
- 2) テーマの流動性もある
 - a) 1つのテーマを極めていくことも大切だが、多様なテーマにフォーカスする面白さも多い。

→ 楽しさも難しさも表裏があり、難しいからこそ得られる楽しさも多い。IFMSA-Japanが幅広い視野を持ち、多様なセクターと協力していくことが理想。

ワークショップ

今回は、特に「ジェンダー」に重点を置いたワークショップを実施した。4つのディスカッションクエスチョンに基づき、グループで対話を行った。

4つのディスカッションクエスチョン

1. 日本において感じるジェンダー不平等は？
2. 日本と他国のジェンダーの問題の違いは？
3. セクシュアルマイノリティにはどのような生きづらさがあるか？
4. 性の多様性を考えた時に、SDGsのゴール・ターゲットは変わる必要があるか？ある場合はどのように変わるべきか？

扱うディスカッションテーマの背景知識

1. ジェンダーの定義
 - a. 男性・女性であることに基づき定められた社会的属性や機会、女性と男性、あるいは女児と男児の間における関係性、さらに女性間、男性間における相互関係を指す (UN woman より)
2. SDGs Goal5 のターゲット (一部抜粋)
 - a. 女性・女児への差別をなくす。
 - b. 女性の参画の促進。リーダーシップの機会の確保。
3. 日本のジェンダーギャップ指数が121位に
4. セクシャルマイノリティ(LGBTs)
 - a. 性の見方は様々あり、体の性、心の性、好きになる性、見た目の性などが挙げられる。
 - b. 個々人により、どういったセクシュアリティで生きるかは多様に異なる。

1. 発表グループ1

- 1) 政治・経済の分野で日本は女性の活躍の場が少ない
 - a) 企業の上役や自衛隊の幹部など
- 2) 男尊女卑の社会
- 3) 一方教育分野において、日本は男女平等の傾向があるのではないか
- 4) セクシャルマイノリティ
 - a) カミングアウトという言葉自体が少し大袈裟になっているのでは
- 5) SDGsのターゲットは、変わるべき点とそのままで良い点の両方ある

1. 講師からのフィードバック

- a. 企業における「女性活躍」の推進や、女性を優遇するとわざわざ提唱することは、女性にとっても良いのか、という疑問がある
- b. カミングアウトはそもそも必要なのか、と考えている
 - i. マジョリティはセクシュアリティを公開する場面はない。その点についてももっと考えれるようになると良い。
- c. フェミニストについて
 - i. フェミニストも一様に括れない
 - ii. トランスジェンダーの方はフェミニストなのか、の論争もある
 - iii. フェミニストは、全ての人が平等に権利を手にすることのできる社会を目指している (エマワトソンさんのスピーチより)

2. 発表グループ2

- 1) 教育現場:教師には男性が多いイメージ
- 2) 仕事現場には、グラスセーリング(見えない壁)がある気がする
- 3) 女性の無償労働やそれに伴う負担が、男性より圧倒的に多い
- 4) 無意識に日本に蔓延る男尊女卑(主人・奥さんなどの呼び方などが日本特有である)
- 5) セクシャルマイナリティに対する理解が少ない
 - a) 同性婚が認められていない、トイレや温泉など男女で分けられた施設の利用で混乱や差別が起きやすい現状
- 6) SDGsのターゲットに、LGBTsの視点や、ジェンダーノームの観点を盛り込むべき

2. 講師からのフィードバック

- a. 日本と海外におけるジェンダー関連の言葉の使い分けは確かにある
- b. 教育現場におけるジェンダー視点
 - i. UNICEFが発表する性に関するガイドラインでは、5才からの性教育が推奨されている(これは日本の現状に照らし合わせるとまだまだ導入不可能)
- c. SDGsのターゲットについて
 - i. 男性だから、女性だから、という視点は必要ない
 - ii. 「その人だから」という視点が重要
- d. 女性の権利を訴えると、男性の権利についての話しあがる(韓国でのあるスピーチから)
 - i. 男性のみに適応される制度もあるという訴え(男性のみの兵役など)
 - ii. しかしそれらの制度もそもそも男性によって定められている

質疑応答

Q1:[IFMSAのメンバーの活動頻度はどのくらいか]

→ 人によって異なるが、平均では週に1回の活動頻度。

Q2:[医療現場で感じるジェンダー不平等はどのようなことがあるか]

- 医学部の入学に関して女性が差別されていた問題もあったように、医学部に入学したての時点では女性の割合がかなり少ないことが目に付く。教授の中でも女性が主に働くべきという考えを持っている方も沢山いる。(久世氏)
- 女子学生の入試における差別が世間で話題になった時は、何を今更という印象を持つほど医学部における女性の割合は低い。企業などは男女平等を推進する傾向があるが、医療の現場は特殊であると感じる。(IFMSA理事)
- ジェンダー平等の推進度は、病院の科によって状況も違う印象がある。例えば小児科などは育休を進んで取ることを推進している気がする(IFMSA理事)

Q3:[性と生殖に関する健康と権利 (SRHR)の推進や、この概念を知っている日本人はまだ少ない感じるが、この意識の低さはなぜ起きるのか】

→ 女性の性教育は非常に重要にもかかわらず、日本では性についての話題を避ける傾向がある。また、教育現場で使用する教科書などで、男女の役割分担などのステレオタイプを、小さいころから無意識に刷り込まれていることが、問題を作り出す1種の原因になっているのではないかと思う。

プログラムとIFMSA-Japan特別講義の概要

今回の特別講義には、IFMSA-Japanから理事の方が3名と、アンバサダー12名が参加しました。

1. SDGs Youth Ambassador Programについて

概要:

SDGsユースアンバサダープログラムは、選抜された若者が主体となり、SDGsに関する推進活動を行うプログラムです。主に、SDGsの認知度向上を目指した学内活動の企画・運営を初め、JYPSのネットワークを用いたセミナー・勉強会、SDGsに関するデータ収集のための学内調査、国際機関・政府・NGO等の訪問、2020年度第一回SDGユースサミットの運営を行っていただきます。今年が第一回目ということで、JYPS事務局とユースアンバサダーと共に試行錯誤しながら、有意義なプログラムの構築を目指します。

アンバサダーのプログラムを通じての目標:

- 1) 日本全国の若者の意識調査を行い、国内の現状把握をする
- 2) 2030年まで持続する学内のSDGsに関連した活動基盤を構築する
- 3) プログラムを通じて様々なバックグラウンドを持つ専門家から知識を得ると共に、ネットワークを広げる
- 4) プログラムを通じて得た知識やリソースをもとに、若者代表として意見を発信する
- 5) グループメンバーや他アンバサダーと共に若者のための、持続可能な社会に向けた議論の場を構築する
- 6) 次世代リーダーであるという意識を持ち、主体的に行動する力を培う

アンバサダーについて:

各地方12組50名以上のアンバサダーが参加。各アンバサダーの紹介は[JYPS ウェブサイト](#)ご覧ください。

2. IFMSA-Japan特別講義について

IFMSA-Japan特別講義の目的:

- 1) IFMSA-JapanのSDGsに関連した活動について学ぶ
- 2) ユース世代の視点から見た社会問題について理解する
- 3) SDGs達成に向け、若者が実践できるアクションについて学ぶ

IFMSA-Japan特別講義の概要:

- 1) 講師:久世瑞穂氏、(IFMSA-Japan)
- 2) 日時:6月24日

3) 形式:Zoom

講義運営側担当者情報:

- 1) 講義ファシリテーター、講義書記・報告書編集者:遠藤舞依(JYPS事務局参画部・プログラムメンター)
- 2) プログラム運営メンバー:JYPS事務局参画部・プログラムメンター:高橋美乃李、宮下諒太